

民博で第20回国際歴史言語学会



アジア初開催 手話もテーマに

世界の言語の歴史や変化について議論する第20回国際歴史言語学会が25～30日、大阪府吹田市の国立民族学博物館（民博）で開かれる。アジアでの開催は初めて。手話や日本語の起源についての一般公開のプログラムもあり、国際的に活躍する言語学者による幅広い分野での議論が期待される。

【佐々木泰造】

言語の系統関係や変化の仕方で開かれ、このときから毎回、方などを研究する歴史言語学に参加している菊澤律子・民博（比較言語学）の学会。北米、准教授が学会長・実行委員長ヨーロッパで隔年開催されてきたが、2001年に初めてとなった。6月24日現在、43カ国・地域から323人が参加登録しており、発表予定件数364件は、これまでの学会の250～300件を大きく上回っている。

また、今回は分科会のテーマ

25日から 日本語の起源巡るシンポも

マとして初めて手話を取り上げた。一般公開の国際ワークショップ「手話の歴史言語学—データベースの構築と一般歴史言語学における展開を指して」が28日に開かれる。

神田和幸・中京大学教授、大杉豊・筑波技術大学准教授による「1901年から2011年に至る日本手話の歴史的变化のデータベース」、佐々木大介・武蔵野大学准教授による「東アジアにおける手話言語の歴史言語学的視点からみた語彙比較」などの発表がある。

最終日の30日には、海外の言語学者による一般公開の国際シンポジウム「アジア・太平洋地域諸言語の歴史研究の方法—日本語の起源は解明できるのか」（民博主催、毎日新聞社後援）が開かれる。

日本語、英語、日本手話、アメリカ手話の同時通訳付き。無料。申し込みが必要。詳しくは <http://www.minpaku.ac.jp/research/r/110728.html>。

米オハイオ州立大学教授「判断を早まるな—日本語を孤立言語とする見解に対する考察」、ジョン・ホイットマン米コーネル大学教授「日本語と朝鮮語（韓国語）の系統関係に関する一考察」などの発表がある。日英同時通訳付き。無料。申し込みが必要。詳しくは <http://www.minpaku.ac.jp/research/r/110730.html>。